

効果量と検定力<被験者間 1 要因分散分析>

プログラム PCalcPowerF は、アルゴリズム 5.2.1 によって効果量に対応する検定力をシミュレーションによって求めるものである。このプログラムを実行すると図 1 のフォームが現れる。

図 1

図 1 のフォームに、水準あたりのサンプル数 (N/水準)、水準数a、効果量f、限界値Faを図 2 のように設定する。

図 2

値の設定後、「計算」ボタンをクリックするとアルゴリズム 5.2.1 によるシミュレーションが始まる。シミュレーションが終了すると図 3 のように結果がメモ・コンポーネントに

表示される。

Form1

N/水準 = 20

a(水準数) = 3

f(効果量) = 0.4

Fa(限界値) = 3.159

開じる

計算

1000000/1000000

計算中
計算終了

countG/NSamples = 775557/1000000 = 0.775557
P(F => Fa) = 77.56%

図 3